

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営 1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	地域の方と交流が持てる様、行事などに参加し、地域と一体となってサービスに取り組んでいる。又、参加する事で地域の方に認知症の方の生活等を徐々に理解して頂いてきている。		
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	朝のミーティングの際に、出勤しているスタッフ全員で理念を唱えており、共有意識、また理念の意義を確認し、実践に生かしている。又、社内の新人研修により、理念の意義、共有の大切さを教育している。より良いサービスを提供していく為、ケア理念を高めていく。		
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	地域や、家族との会合の際、理念を理解していただけるよう、話をしている。又、ホーム内の目のつきやすい場所に理念を掲示している。		
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近隣の方とは、普段からスタッフ全員が気軽に声や挨拶を交わせる付き合いである。又ホームで作った野菜等を近所にあげたり、近所の方からも頂いたりしている。会長さんなどは、野菜の苗などを畑に植えていってくださる。施設内でのお祭りなどの行事の際には、ご近所に回覧板を回し、参加していただくよう勤めている。		
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の会合、行事等に積極的に参加をし、交流を深めている。		
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の人々を集め、認知症等についての講演を定期的に行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実施するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価、外部評価の前後には、スタッフ全員でミーティングを行い、理解・改善に努めている。又、住環境や書類の改善があった際は、速やかに対処している。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議において、取り組んできたサービス、現状等を報告し、その中で出た意見をその後のサービス向上に反映させている。又、地域との密な関係(町内行事等の参加)に努め、ホーム主催のイベントや、消防訓練等の参加も呼びかけている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町村との行き来は現在もなし。	○	・今後、市町村との話し合いの場を持ち、サービス向上に努めていきたい
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修、勉強会などにより、徐々に理解は深めてきているが現在は該当する入居者はいず、取り組む機会が無い。	○	・今後も地域権利擁護事業や、成年後見制度をより理解できるよう、勉強会や研修を今後も増やしていく
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	社内外の研修、勉強会を通し、虐待防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約・解約等の説明を丁寧に行い、理解を得られている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見・不満・苦情に関する電話でのホームへの連絡先、外部関係機関への連絡先をホーム内廊下等、目のつきやすい場所への掲示を行い、本人もしくは、その家族を通じ連絡できるよう環境作りを行っている。又、日々のケアの中でも意見に耳を傾けるよう努めている。今後も、意見、不満、苦情の連絡先の存在を、より利用者やその家族にわかるようにアピールしていく。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	定期的に来訪する家族には、その都度時間をもらい、利用者の暮らしぶり、健康状態等を詳細に報告し、来訪が困難な家族にも定期的に電話、手紙等を通じて報告を行っている。又、異変が生じた場合は即時報告をしている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見・不満・苦情に関する内外関係各所への連絡先の掲示や、家族来訪時におけるコミュニケーション、又、家族交流会等のイベントなどを通じて、そういった声を取り入れる体制作りを行っている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に数回行われる勉強会やミーティング、又、毎日のカンファレンスの中で職員が意見や提案をその都度話し合っており、環境は整っている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の体調変化や家族からの要望などがあつた場合、速やかにミーティングを行い、必要に応じて勤務シフトの調整、変更を行っている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動・離職は、ここ3年程行われていない。実習生等、馴染みではない来訪者があつた場合は、馴染みの職員が付き添う等して、徐々に馴染める様な距離を作り、利用者への配慮をしている。今後も止むを得ず移動等が起きた場合は、ミーティングを行い、ケースバイケースで利用者へ配慮した対応に勤める。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	医療機関との連携も含め、対応に努めている。近隣の病院と連携し、24時間対応してもらえるようにしている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬように馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入所前の情報収集により、ご本人の望まれる形を実現するように努めている。又、馴染みにくい状況の時は、時間をかけ、ホームへ通う形等を取り、徐々に馴染める場の雰囲気を作るよう、努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	料理や畑仕事、日曜大工等、ご本人の得意なことを通じて、喜怒哀楽を共有している。今後も利用者の得意なことを通じ、学んだり、支えあう関係を築いていく。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	毎月新聞を作成し、行事や日常生活の報告をしている。又、家族交流会などを通じて情報交換し、一緒にご本人を支えていく関係が築けている。ホームでの外出行事にも、ご家族に参加いただけるよう声掛けをしている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族、ご本人から情報収集し、より良い関係が築けると判断した際は、職員が間にはいって良い関係作りに努めている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	居室内は、なるべく本人の馴染みの物を使用していただくように努めている。又、家族との連携を図り、馴染みの人や場所との関係が途切れないように一時帰宅をしたり、親戚、友人に会う機会を提供している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係の把握に努めており、職員も一緒に関わり合いながら楽しめる関係作りを努めている。本人や家族からの情報収集、又、職員が感じたことを記録に取り、職員間で情報の共有を行っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	利用終了後もホームへ遊びに来たり、家族から電話があつたりしている。又、入院療養の為退所された利用者の所へ、職員が自発的にお見舞いに行く等、付き合いを大切にしている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いに沿った暮らしが出来るように情報収集に努め、困難な場合も本人の気持ちを汲み取り、近づける様取り組んでいる。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や家族から情報収集し、又、生活の場からその人の特徴を見極めた上で、その人にあつた生活環境が保てるように努めている。	○	・利用者全ての人の要望が叶えられているとは言えず、帰宅願望がある方の家族に、なるべくホームに顔を出してもらうように声を掛ける等の対応を今後していく
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	記録をとりながら、利用者一人ひとりの生活リズムや声に耳を傾け、その行動を把握した上で、その人にあつた対応を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人の意見や家族からの情報、医師からの指導などを踏まえた上で、どのようなケアがより良いのか課題を検討している。又、状況に変化があつた場合は、必ずアセスメントを行い、解決に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	生活記録等を参照しながら、毎月介護計画書を見直している。又、変化が生じた場合は、スタッフ間、家族との話し合いを行い、新たな計画書を作成している。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	毎日、生活記録をとり、毎朝夕の申し送りで情報を共有し、実践や介護計画の見直しに役立てている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	併設されているデイサービスと合同で行事を開き、家族にも時々参加してもらっている。又、畑を利用し、野菜の栽培等を楽しんでいる。デイサービスの介護車両を利用し、外出行事なども行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防訓練は、年2回行っている。訓練の際、毎回ではないが町内会の方々が参加してくださっている。又年1回小学校のPTAの人達が不用になったタオルなどを寄贈してくださっている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現在は、経費の関係もあり行っていない。	○	・本人、家族などの希望があれば支援を行いたい
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	シルバーボランティア等への働き掛けや、社会福祉利用の希望等を話合っ てはいるも、利用にはいたっていない。	○	・本人の意向や必要性に応じて、協働していきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員が常駐しており、かかりつけ医も決まっており、定期的に受診も行っている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症の専門医と連携が取れており、かかりつけ医になってもらっている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員が常駐しており、その都度対応・支援をしている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	病院関係者との情報交換や入退院後の相談に努め、連携もとれている。又、退院後のADL低下防止の為、出来るだけ離床を心がけ、医師指導の下、リハビリも行っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	・早い段階で、話し合いの場を設けている		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化、終末期を迎えた利用者について、スタッフ、医師を含め、変化についての対応を話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によりダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>本人に関わる情報交換、話し合いを密に行っており、新しい環境に馴染める様、支援している。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の故人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>誇り、プライバシー保護に努めている。又、個人情報管理の徹底を行っている。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや気持を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している。</p>	<p>一人ひとりの個性を良く理解し、なるべく希望や自己決定を表しやすい環境作りに努め、丁寧な説明や、選択出来る質問にて自己解決を促している。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>スタッフ本位ではなく、利用者一人ひとりの希望やペースに合わせた支援を行っている。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>利用者と相談しながら、希望に沿った服装を選択している。又、1～2ヶ月に一度、理容師により、ヘアカットを行い、本人の希望に沿える様努めている。要望に合わせ、毛染めや化粧をして、利用者が喜ぶように努めている。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。</p>	<p>一人ひとりの能力に合わせた、食事、調理、片付けをスタッフと共に行っている。コミュニケーションを図りつつ、楽しみながら出来るよう支援している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	買い物、外食等で、食べたい物を自分で選択している。又、メニュー作りにも参加してもらい、職員と一緒に献立を立てている。食べたくない物が出た際は、代替食にて対応している。要望があった際は、飲酒にも対応している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄表を利用し、排泄リズムを把握して、自立排泄困難な利用者には時間帯で排泄誘導を行っている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日は決めているが、要望があれば随時入浴可能に努めている。又、同姓による入浴介助を行っている。しかし、夜勤者1人の為、夜間の入浴希望には叶えられていない。	○	・時間帯に関係なく、常に入浴できるよう取り組んでいきたい。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	本人のリズムに合わせ、休息してもらっている。夜間2～3時間おきに巡回を行うことで、安心安全確認に努めている		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	午前・午後を使い、余暇活動を行っている。一人ひとりのレベルに合ったレクリエーションの取り組みをしている。作品の共同制作などもしている。散歩やドライブ、買い物やカラオケ等、外出する機会を増やしている。又、季節に合った外出を取り入れている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の希望に沿って、自分の好きな衣類や食品と一緒に買っている。全員ではないが、金銭管理は本人に任せ、使用もしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	利用者の希望に沿い、天気の良い日は散歩や屋外での日向ぼっこ、畑作り等を行っている。又、状況に合わせ、ドライブ外出や買い物等に出掛けられている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段はいけな いところに、個別あるいは他の利用者や家 族とともに出かけられる機会をつくり、支援 している。	月2回は外出行事を企画し、外へ出る機会を設けている。家族交流会、夏祭り等、家族が参加する機会を設けている。又、利用者、家族の希望に沿い、個別の外出を支援している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をし たり、手紙のやり取りができるように支援を している。	写真、コメント等が入った新聞や手紙の作成を行い、月1回ご家族へ郵送している。又、本人の訴えにより、家族への電話連絡や手紙の郵送を行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人 たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地 よく過ごせるよう工夫している。	いつでも訪問できるよう開放している。又、訪問者ノートの記録を行い、自由にホーム内で過ごしてもらっている		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的 な行為」を正しく理解しており、身体拘束を しないケアに取り組んでいる。	拘束は実施していないが、転倒の危険性がある利用者は、家族同意の上でベット柵等を使用することもある。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄 関に鍵をかけることの弊害を理解しており、 鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中、ドアに鍵は掛けずに開放し、目配りを多くすることにより、安全確認に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に見守りを行い、プライバシーに配慮している。夜間就寝時にも、定期的に巡回を行っている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居者に対して危険な物、危険なことがあった場合は家族と相談し、その人の状態に合った物品を使用している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒防止の為の見守り、手引き歩行、誤嚥防止の為の見守り、声掛け、食事介助、服薬チェックシートを使用した誤薬防止等、事故防止に取り組んでいる。又、年2回、防災訓練をおこなっている。職員は、研修等で事故防止の知識を学んでいる。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救急手当等研修を定期的受講したり、事故マニュアルの見聞も行っている。ミーティングによる職員間での話し合いも定期的に行っている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回避難訓練を行っている。又、町内会長さんや近隣の人々にも協力をお願いしている。開所当初より、火災時の対応を近所の方と定期的に話し合っている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	契約の際、又、状況が変化した場合、家族に説明している。		

(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> ・カルテに各個人の内服シートを添付してあるので覚えていく ・新しく増えた薬などに対し、作用、副作用等をピルブックを使用し、積極的に調べていく
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>		
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎食後、調理器具・布巾の漂白を行っている。又、新鮮な食材を常に購入し、提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	ホーム手前の曲がり角、看板を設置し、玄関前及び玄関に入ると、ホーム案内を掲示している。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	その場に合った照明の強度、TVの音量等の調整を行っている。居室やリビングには遮光カーテンを使用し、まぶしさ、日差しに配慮している。又、季節の草花を飾ったり、昔の馴染みの音楽を流したりしている。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	馴染みの関係が出来ており、それぞれ楽しく会話をしている。個々にあったゲームや工作などを行う一方、皆さんで楽しめる合唱や、フーセンバレー等も行っている		
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に使い慣れた家具、装飾品、写真等を持ってきてもらい、居心地良く生活していただけるよう工夫している。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	臭いや空気のおよみに注意し、こまめな換気に努めている。又、天候や室温、湿度には常にを配り、暖房、冷房の使用、加湿器や、各居室に濡れバスタオルを掛け対応している。温度計、湿度計を設置し、常に気に掛けている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	身体レベルに合わせて、廊下、トイレ、浴室等に手すりを配置している。又、廊下、トイレ等は、動きやすい幅になっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように九数している。	各居室の入り口前に、メモリーボックスを設置し、写真や馴染みの物、本人作成の小物などを飾ることで、目印となっている。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	窓から見える花々や木々、又散歩の際は近隣の方の協力の下、庭を見学させてもらい、季節を感じる楽しみが持っている。又、東屋にてお茶を楽しんだり、裏庭で家庭菜園等も行っている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<ul style="list-style-type: none"> ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールした点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載） 自分が認知症になったらぜひ入居したいと思います。家族とのコミュニケーションを大切にしている。